



Chapter

サイト情報

平塚製造所

生産品目：航空機用タイヤ、ベルト、ゴムライニング製品、防舷材、
止水製品、その他工業品、航空機用部品、スポーツ用品、
建築用・自動車用シーリング材
敷地面積：999,000m²（ハマタイト工場、D-PARC、T*MARYを含む）
従業員数：1,651人（2005年3月）

所長コメント

平塚製造所は昭和27年の稼働以来、横浜ゴムの技術開発の中核として、もの作り発信基地の役割を担っています。この役割をこの地で継続していくためには、地域との共生が大前提であると認識しています。そのために、コンプライアンスの徹底をベースに「防災・安全レベルの向上」「地域貢献」「地域とのコミュニケーション」の3つの方針の下、環境保全・防災の自主点検と改善活動の展開、地域イベントへの参加や障害者雇用の継続、工場見学の受け入れや地域自治会との定期コミュニケーション会の開催などさまざまな活動に取り組んでいます。今後も平塚市の心臓部に立地している化学工場であることを肝に銘じ、地域発展に貢献していきたいと考えています。

環境方針

- 1 平塚製造所は包含する全ての機能部門及び事業部門をブロックに分け環境へ配慮した施策に取り組む。
- 2 信頼される製造所となるために、この我々が決めた環境マネジメントシステムが示す手順を確立し、維持することにより、環境汚染の予防と環境改善を継続的に進める。
この改善に当たっては、商品開発・生産・廃棄に渡り心と技術をこめたモノづくりを追求する。
- 3 環境改善について要求度・重要度を十分に評価し、自ら決めた改善を確実に実施する。
- 4 地球温暖化対応、省エネルギー、廃棄物の低減及びリサイクルの推進を図る。
- 5 関連する法規制及び協定等を遵守し、環境保全に取り組む。
- 6 本方針を具現化するため製造所の環境目的・目標を設定し、且つこれらに連鎖したブロック別環境目的・目標に従って計画的に実行する。
- 7 環境目的・目標及び計画は、年1回見直しを行う。
- 8 全従業員が、本方針を理解し行動するよう教育と啓蒙を行い周知徹底する。
- 9 湘南平塚のおおらかな自然との調和・融合をもとに地域との共生を目指す。
- 10 本方針は、一般の人からの要求に応じ公表する。

地域交流活動・その他

湘南寮と徳延社宅のテニスコートを一般開放しています。多くの方々に利用していただき、昨年は合わせて年間336回の一般利用がありました。



化学物質の「安全性影響度」の見方

PRTR法では、化学物質の環境への排出量の報告が義務付けられていますが、化学物質の環境への影響度は排出量だけでなく、その有害性によって大きく左右されます。従って化学物質の環境へのリスクの低減には、排出量と併せて有害性を考慮し、総合的な評価の下に対策を講じる必要があります。

そこで本報告書では神奈川県「化学物質の安全性影響度の評価に関する指針」を参考に、PRTR法による個々の報告対象物質の「排出量」に、神奈川県が公表する有害性に応じた「毒性係数」を掛けた「換算排出量」を算出し、これらを足して事業所の合計排出量を算出しました。

これを人の健康への影響度及び生態系への影響度をランク付けした「安全性影響度の評価表」（下表参照）に照らし合わせ、各事業所の位置を示しリスク低減の方向性を明確にしました。

例えば、平塚製造所（P53★印参照）は、人の健康への影響度の合計排出量は1685.1tなのでランクⅢ、生態系への影響度の合計排出量は4170.6tなのでランク2となります。これによって、平塚製造所の安全性影響度評価は「Ⅲ-2」と表すことができます。

この指標に基づき、リスク低減に向けてPRTR対象化学物質のさらなる削減活動に取り組めます。

有害性ランクと毒性係数

ランク	A	B	C	D
毒性係数	1000	100	10	1

人の健康への影響のランク表

ランク	総換算排出量 (人の健康への影響)
I	10,000t以上
II	3,000t以上10,000未満
III	1,000t以上3,000未満
IV	300t以上1,000未満
V	100t以上300未満
VI	30t以上100未満
VII	10t以上30未満
VIII	10t未満

生態系への影響のランク表

ランク	総換算排出量 (生態系への影響)
1	10,000t以上
2	1,000t以上10,000未満
3	100t以上1,000未満
4	10t以上100未満
5	10t未満

安全性影響度の評価表

区分	安全性影響度（生態系への影響）					
	1	2	3	4	5	
安全性影響度（人の健康への影響）	I					人の健康への影響 大
	II					
	III	平塚製作所				人の健康への影響 中
	IV	三島工場				
	V	新城工場 三重工場				
	VI		茨城工場			人の健康への影響 小
	VII		ハマタイト工場			
	VIII				尾道工場 新城南工場	
		生態系への影響 大	生態系への影響 中	生態系への影響 小		

所在地: 〒254-8601 神奈川県
平塚市追分2番1号
TEL. 0463(35)9501

平塚製造所はハマタイト工場(平塚市四之宮)を含んだ総称です。

製造所長 上田 啓吾



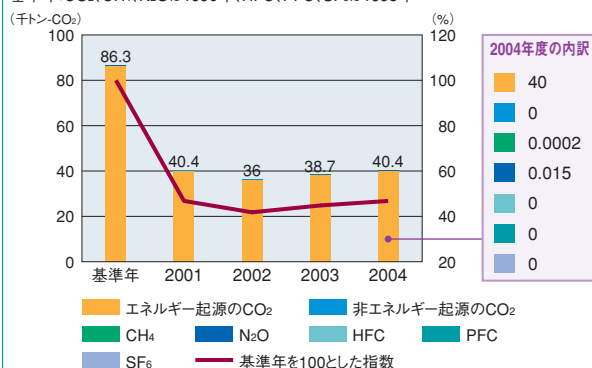
平塚製造所

ハマタイト工場



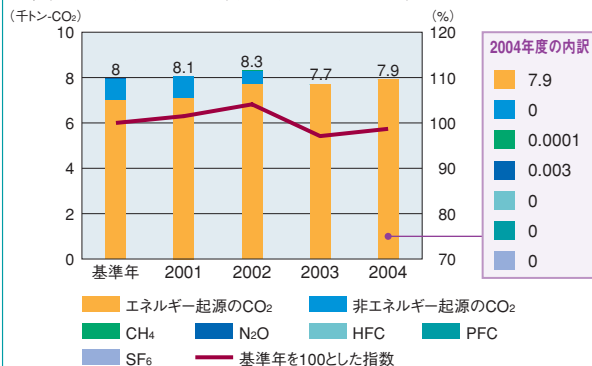
総温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数(平塚製造所)

基準年:CO₂、CH₄、N₂Oは1990年、HFC、PFC、SF₆は1995年



総温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数(ハマタイト工場)

基準年:CO₂、CH₄、N₂Oは1990年、HFC、PFC、SF₆は1995年



大気関係測定データ(主要施設)

施設名称	項目	規制値	2004年度実績値		
			平均	最大	最少
平塚製造所	窒素酸化物濃度(ppm)	80	61	71	51
1号〜4号ボイラー	ばいじん量(g/h)	371	2.4	3.9	7
平塚製造所	窒素酸化物濃度(ppm)	45	36	38	31
5号〜6号ボイラー	ばいじん量(g/h)	463	4.9	8.5	1.5
平塚製造所	窒素酸化物濃度(ppm)	20	17	19	15
コージェネレーション	ばいじん量(g/h)	2176	154	330	25
ハマタイト工場	窒素酸化物濃度(ppm)	60	30	34	26
エバラボイラー	ばいじん量(g/h)	272	2未満	2.3	1.4未満
ハマタイト工場	窒素酸化物濃度(ppm)	60	25	28	21
みうらボイラー	ばいじん量(g/h)	180	1.7未満	2未満	1.5未満

法律名称等:大気汚染防止法、神奈川県条例

水質関係測定データ(主要排水)

排水口名	項目	規制値	2004年度実績値		
			平均	最大	最少
平塚製造所	pH	5.7〜8.7	7.8	8.5	6.7
	BOD濃度(mg/l)	300	46.9	140	3
	SS濃度(mg/l)	300	48.1	250	4
	油分濃度(mg/l)	30	4未満	13	1未満
ハマタイト工場	pH	5.7〜8.7	8	8.2	7.7
	BOD濃度(mg/l)	300	37.8	170	6
	SS濃度(mg/l)	300	58.7	260	7
	油分濃度(mg/l)	30	1.7未満	7	1未満

法律名称等:平塚市下水道条例

PRTR対象物質(単位:トン/年)

平塚製造所				安全性影響度評価 III-2 ★			
政令番号	対象化学物質	取扱量	排出量*	移動量*	有害性ランク(人)	年間換算排出量(人)	年間換算排出量(生態)
115	N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	160.2	0	0.3	D	0	A 0
282	N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	94.1	0	0.2	D	0	A 0
272	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	72.8	0	0.4	A	0	A 0
227	トルエン	66.6	10.6	4.48	C	106	D 10.6
9	アジピン酸ビス(2-エチルヘキシル)	52.8	0	0.3	C	0	A 0
63	キシレン	42.3	1.7	0.02	C	17	A 1,700
30	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	41.5	0	4.3	C	0	D 0
132	1,1-ジクロロ-1-フルオロエタン(HCFC-141b)	23.2	23	0.3	D	23	B 2,300
45	エチレングリコールモノメチルエーテル	15.1	10.9	4.2	B	1,090	D 10.9
25	アンチモン及びその化合物	7.9	0	0.41	A	0	C 0
211	トリクロロエチレン	6.1	3.9	2.2	B	390	C 39
204	テトラメチルチウラムジスルフィド(チウラム)	5.2	0	0.03	未評価	—	未評価 —
270	フタル酸ジ-n-ブチル	5.2	0	0.029	A	0	B 0
100	コバルト及びその化合物	3.3	0	0.04	A	0	— 0
198	ヘキサメチレンテトラミン	2.8	0	0.016	C	0	D 0
299	ベンゼン*	2.4	0.058	0	A	58	D 0.058
230	鉛及びその化合物	2.3	0	0.01	A	0	A 0
310	ホルムアルデヒド	1.9	0	0.01	A	0	C 0
40	エチルベンゼン	1.9	0.11	0	C	1.1	A 110
197	デカブロモジフェニルエーテル	1.9	0	0.02	C	0	C 0
総合計		609.5	50.2	17.1		1,685.1	4,170.6

ハマタイト工場 安全性影響度評価 VII-3 ★

政令番号	対象化学物質	取扱量	排出量*	移動量*	有害性ランク(人)	年間換算排出量(人)	年間換算排出量(生態)
272	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	714.2	0	5.8	A	0	A 0
273	フタル酸n-ブチル=ベンジル	563.4	0	0.28	D	0	B 0
338	m-トリレンジイソシアネート	382	0	0	A	0	D 0
227	トルエン	119.9	1.42	10.89	C	14.2	D 1.42
30	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	119.6	0	1.32	C	0	D 0
120	3,3'-ジクロロ-4,4'-ジアミノジフェニルメタン	81.9	0	0	A	0	B 0
311	マンガン及びその化合物	61	0	0.55	A	0	— 0
63	キシレン	50.6	0.1	0.41	C	1	A 100
40	エチルベンゼン	22.1	0.044	0.18	C	0.44	A 44
176	有機スズ化合物	17.4	0	0.56	A	0	A 0
266	フェノール	16.5	0	0.13	A	0	B 0
9	アジピン酸ビス(2-エチルヘキシル)	15.8	0	0.63	C	0	A 0
93	クロロベンゼン	15.1	0.002	0.01	B	0.2	B 0.2
204	チウラム	8.4	0	0.08	未評価	—	未評価 —
224	1,3,5-トリメチルベンゼン	8.3	0.017	0	C	0.17	B 2
230	鉛及びその化合物	6.7	0	0	A	0	A 0
293	ヘキサメチレン=ジイソシアネート	5.6	0	0	A	0	— 0
24	直鎖アルキルベンゼンスルホン酸及びその塩	1.9	0	0.01	C	0	B 0
総合計		2,210.5	1.6	20.8		16	147.3

取扱量は1トン以上を記載

*1 排出量=公共用水域+土壌+埋立

*2 移動量=公共下水道+処理施設+除去処分

*3 取扱量 0.5トン/年以上

三重工場

生産品目：トラック・バス用、乗用車用、小型トラック用タイヤ
敷地面積：264,000m²
従業員数：865人（2005年3月）
所在地：〒516-8530 三重県伊勢市御園町高向1038番地
TEL. 0596 (28) 3151

工場長 金澤 厚



工場長コメント

三重工場は国内で最も早くに操業をはじめた工場です。工場所在地の御園村は2005年11月1日に伊勢市・小俣（おぼた）町・二見（ふたみ）町と合併し、伊勢市となるなど、工場周辺の環境は操業開始当時から大きく変わりつつあります。したがって、過去の前列にとらわれずに、これからも環境へ配慮した活動に取り組んでまいります。周辺の町内会との懇談会（ご出席：100名強）、住民の方への工場開放などはもちろん、今年末にはCO₂発生削減のために自家発電装置を新たに稼働させ、更なる自然との調和・融合を目指します。これからも、相互信頼のもとづく関係作り・交流を行い、地域との共生を図っていきます。

環境方針

- 1 三重工場は、全ての活動分野で環境へ配慮した施策に取り組む。
- 2 信頼される工場となるために環境マネジメントシステムを強化し、環境汚染の予防と環境改善を継続的に進める。
- 3 資源保護のための省エネルギー、廃棄物の低減及びリサイクルの推進を図る。
- 4 関連する法規制及び協定等を遵守し、環境保全に取り組む。
- 5 環境方針を具現化するため環境目的・目標を設定し、計画的に実行する。
又、環境目的・目標及び計画は、定期的に見直しを行う。
- 6 全従業員が、本方針を理解し、行動するよう教育と啓蒙を行い周知を図る。
- 7 神都、伊勢の自然との調和・融合と地域との共生を目指す。
- 8 本方針は、一般の人からの要求に応じ公表する。

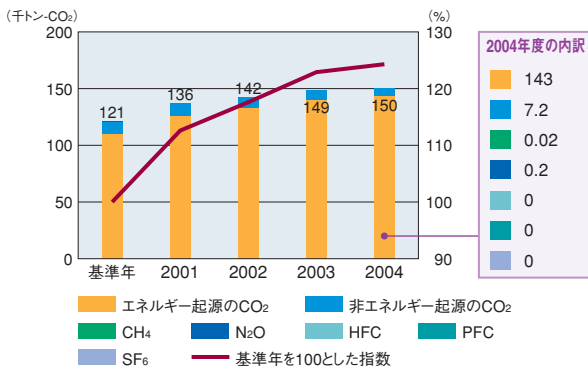
地域交流活動・その他

工場東側の清掃を月4回実施しています。そのほか、清掃活動としては年1回実施の工場周辺大掃除（110名参加）や勢田川七夕大掃除（100名参加）などを行っています。



総温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数

基準年：CO₂、CH₄、N₂Oは1990年、HFC、PFC、SF₆は1995年



大気関係測定データ（主要施設）

施設名称	項目	規制値	2004年度実績値		
			平均	最大	最少
ボイラー	硫黄酸化物排出量(Nm ³ /h)	12.3	0.69	1.23	0.46
	窒素酸化物濃度 (ppm)	180	154	169	139
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.1	0.012	0.02	0.005
焼却炉	硫黄酸化物排出量(Nm ³ /h)	6.2	2.51	3.391	1.219
	窒素酸化物濃度 (ppm)	250	58	74	60
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.3	0.03	0.162	0.002

法律名称等：大気汚染防止法、御園村・伊勢市公害防止協定

水質関係測定データ（主要排水）

排水口名	項目	規制値	2004年度実績値		
			平均	最大	最少
No. 1 排水	pH	6～8	7.1	7.3	6.7
	BOD濃度 (mg/l)	20	1.4	2	0.5未満
	COD濃度 (mg/l)	20	1.7	3.3	1
	SS濃度 (mg/l)	40	1.4	3	1未満
	油分濃度 (mg/l)	2	1	1.3	1未満
No. 2 排水	pH	6～8	7.2	7.9	6.5
	BOD濃度 (mg/l)	20	1.1	2.6	0.5未満
	COD濃度 (mg/l)	20	2.1	6.3	0.8
	SS濃度 (mg/l)	40	1.8	6	1未満
	油分濃度 (mg/l)	2	1.3	2	1未満

法律名称等：御園村・伊勢市公害防止協定

PRTR対象物質（単位：トン／年 ただしダイオキシン類はmg-TEQ／年）

					安全性影響度評価 V-2 ★			
政令番号	対象化学物質	取扱量	排出量*	移動量*	有害性ランク (人)	年間換算排出量 (人)	有害性ランク (生態)	年間換算排出量 (生態)
282	N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	552.2	0	8.0	D	0	A	0
115	N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	106.1	0	3.13	D	0	A	0
100	コバルト及びその化合物	29.6	0	0.59	A	0	—	0
227	トルエン	28.1	16.9	0	C	169	D	16.9
63	キシレン	10.7	1.6	0	C	16	A	1,600
310	ホルムアルデヒド	6.1	0	0	A	0	C	0
40	エチルベンゼン	2.1	0.36	0	C	3.6	A	360
299	ベンゼン*3	1.2	0.1	0	A	100	D	0.1
179	ダイオキシン類	—	1.11	14.4	A	0	—	0
総合計		736.1	20.1	26.1		288.6		1,977

取扱量は1トン以上を記載

*1 排出量＝公共用水域＋土壌＋埋立

*2 移動量＝公共下水道＋処理施設＋除去処分

*3 取扱量 0.5トン/年以上

ダイオキシン測定データ

施設名称	項目	規制値	2004年度実績
焼却炉	排ガス (ng-TEQ/m ³ N)	10	0.012
	排出水 (pg-TEQ/L)	10	8.6
	焼却残渣 (ng-TEQ/g)	3	0
	飛灰 (ng-TEQ/g)	3	0.083

法律名称等：ダイオキシン類対策特別措置法

三島工場

生産品目：乗用車用、レース用、小型トラック用タイヤ
敷地面積：112,000m²
従業員数：516人（2005年3月）
所在地：〒411-0832 静岡県三島市南二日町8番1号
TEL. 055 (975) 0800

工場長 野地 彦旬



工場長コメント

三島市は、「水と緑と文化のまち」をスローガンに小池三島市長が、強力に市政に環境活動を打ち出しリードしています。このたび、第14回地球環境大賞「優秀環境自治体賞」を唯一自治体で受賞し、皇太子殿下より表彰されました。市役所から幼稚園、保育園に至る70ヶ所以上の公共施設がISO14001を取得しています。三島工場は1998年に三島地域でもっとも早くISO14001を取得し、環境経営を先駆け継続的に実施し地域に貢献してきました。今年6月にはコージェネレーションシステムが稼動し、電気の60%、蒸気の100%を賄うことができ、排出CO₂は21%削減することが可能になりました。7月には環境貢献活動企業として、小池三島市長より表彰をいただきました。

現在、三島工場は、工場敷地内で働く全ての人に、工場周辺の方々に、世界中のお客様に、そして地球全体に対し、本当にやさしい目的・目標になっているかをもう一段深掘りしつつあります。製品直行率100%、最小限の使用エネルギー、無駄な在庫や運搬はゼロ、生産過程で発生する廃棄物はリデュース・リユース・リサイクルで最小限、埋め立て廃棄物はゼロ、これを究極のゴールとして取り組んでいます。これらの活動の結果、工場からの排水は非常にきれいで、排水口では大きな鯉がたくさん泳いでいます。煙突からの排煙は水蒸気で無害です。廃棄物埋め立ても完全ゼロエミッションを継続しています。しかしながら小学生、中学生をはじめ工場見学に来られる方の多くは「工場は汚いもの」をたくさん排出している所」と誤解されています。三島工場について正しく理解していただくよう丁寧に説明し、工場見学のご案内をしています。先日、見学後に小学生の皆さんから「間違った先入観で工場を見ていました。こんなに気を使って、三島工場はきれいなんですね。ごめんなさい」と、涙が出るほどうれしい感想文をいただきました。

環境方針

- 1 三島工場は、全ての活動分野で環境へ配慮した施策に取り組む。
- 2 信頼され、愛される工場となるために環境マネジメントシステムを強化し、環境汚染の予防と環境改善を継続的に進める。
- 3 資源保護のため省エネルギーを推進し、分別徹底で資源の有効利用をし、埋立廃棄物ゼロを継続する。
- 4 関連する法規制及び協定等を遵守し、環境保全に取り組む。
- 5 環境方針を具現化するため環境目的・目標を設定し、計画的に実行する。
- 6 全従業員が、本方針を理解し、行動するよう教育と啓蒙を行い周知を図る。
- 7 水と緑と文化のまち 三島を大切に、関係諸官庁、地域住民とのコミュニケーションを図り環境活動に取り組む。
- 8 本方針は公開する。

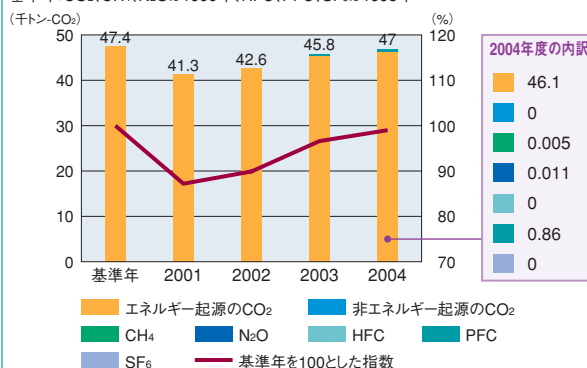
地域交流活動・その他

毎年、三島市が主催するボランティアによる河川清掃に協力しています。昨年は桜川の清掃に25名、大場川の清掃に37名が参加しました。



総温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数

基準年：CO₂、CH₄、N₂Oは1990年、HFC、PFC、SF₆は1995年



大気関係測定データ（主要施設）

施設名称	項目	規制値	2004年度実績値		
			平均	最大	最少
ボイラー	窒素酸化物濃度 (ppm)	150	39	42	36
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.1	0.001未満	0.001未満	0.001未満

法律名称等：大気汚染防止法、三島市指導値

水質関係測定データ（主要排水）

排水口名	項目	規制値	2004年度実績値		
			平均	最大	最少
	pH	5.8～8.6*	7.9	8.5	7.3
	BOD濃度 (mg/l)	10	1.28	4	0.5
	COD濃度 (mg/l)	120*	1.78	3.7	1.2
	SS濃度 (mg/l)	20	1.2	2	1
	油分濃度 (mg/l)	2	2未満	2	2未満

法律名称等：三島市環境保全協定、* 水質汚濁防止法

PRTR対象物質（単位：トン／年）

政令番号	対象化学物質	取扱量	排出量*	移動量*	安全性影響度評価 IV-2 ★			
					有害性ランク (人)	年間換算排出量 (人)	有害性ランク (生態)	年間換算排出量 (生態)
115	N-シクロヘキシル-2-ベンジチアゾールスルフェンアミド	221.9	0	0.65	D	0	A	0
282	N-(tert-ブチル)-2-ベンジチアゾールスルフェンアミド	118.9	0	0.35	D	0	A	0
198	ヘキサメチレンテトラミン	28.2	0	0.08	C	0	D	0
227	トルエン	16.7	16.7	0	C	167	D	16.7
266	フェノール	12.6	0	0.04	A	0	B	0
63	キシレン	3.4	3.4	0	C	34	A	3,400
299	ベンゼン*	0.6	0.6	0	A	600	D	0.6
	総合計	402.3	20.6	1.1		801		3,417.3

取扱量は1トン以上を記載

*1 排出量＝公共用水域＋土壌＋埋立

*2 移動量＝公共下水道＋処理施設＋除去処分

*3 取扱量 0.5トン/年以上

新城工場

生産品目：乗用車用、小型トラック用タイヤ
敷地面積：306,000m²
従業員数：759人（2005年3月）
所在地：〒441-1343 愛知県新城市野田字古屋敷1番地
TEL. 0536 (22) 2251

工場長 鈴木 一郎



新城工場



新城南工場

工場長コメント

新城工場は昨年操業した新城南工場を加え、日量41,000本の工場となりました。昨今の課題は新商品の開発、立ち上げに伴い発生する産業廃棄物の削減です。失敗コストを削減し、原材料や製造エネルギーの無駄を無くすことで炭酸ガス排出量を減らし、地球温暖化の抑制に寄与することが、まず実行するべき環境課題と認識しています。2006年にはコージェネレーションシステムを導入する予定で、更なる省エネルギー化に努めます。新城工場は豊川沿いの緑が豊かな場所にあります。この素晴らしい地域環境を守ることが地域と共生し、信頼される工場となるための大きな課題だと考えます。工場で働く全ての人が環境への関心を持ち、各自ができることから行動し、皆様にここで働きたいと思っていただけるような工場作りを目指します。

新城工場・環境方針

- 1 新城工場は、全ての活動分野で環境へ配慮した施策に取り組む。
- 2 信頼される工場となるために環境マネジメントシステムを強化し、環境汚染の予防と環境改善を継続的に進める。
- 3 技術とコストを追求し、環境改善のできることから確実に実施していく。
- 4 資源保護のための省エネルギー、廃棄物の低減及びリサイクルの推進を図る。
- 5 関連する法規制及び協定を遵守し、環境保全に取り組む。
- 6 環境方針を具現化するため環境目的・目標を設定し、計画的に実行する。
- 7 環境目的・目標及び計画は、年1回見直しを行う。
- 8 全従業員が、本方針を理解し、行動するよう教育と啓蒙を行い周知を図る。
- 9 良き企業市民として、地域社会への貢献を目指す。
- 10 本方針は公開する。

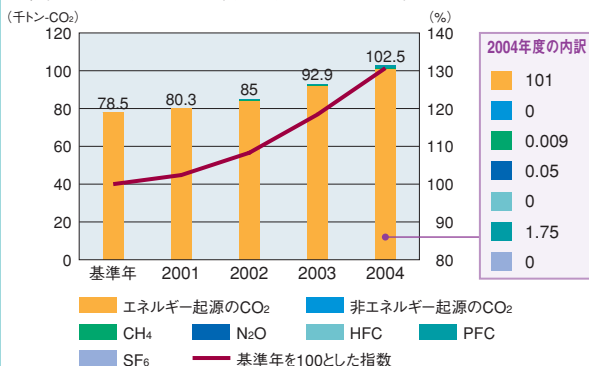
地域交流活動・その他

工場前の横断歩道で、登下校時の小学生などを対象に交通指導を実施しています。土日、祝日を除いて従業員が交代で行っています。



総温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数

基準年：CO₂、CH₄、N₂Oは1990年、HFC、PFC、SF₆は1995年



※2003年4月より新城南工場が稼働

大気関係測定データ（主要施設）

施設名称	項目	規制値	2004年度実績値		
			平均	最大	最少
新城工場 1号ボイラー	硫黄酸化物排出量 (Nm ³ /h)	8.2	4	4.45	3.74
	窒素酸化物濃度 (ppm)	150	130	140	120
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.2	0.02	0.03	0.01
新城工場 2号ボイラー	硫黄酸化物排出量 (Nm ³ /h)	7.38	3.96	3.41	4.42
	窒素酸化物濃度 (ppm)	150	132	140	130
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.2	0.01	0.02	0.004
新城南工場 1～2号高压ボイラー	硫黄酸化物排出量 (Nm ³ /h)	0.08	0.025	0.03	0.02
	窒素酸化物濃度 (ppm)	150	75.5	85	66
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.2	0.012	0.02	0.004
新城南工場 1号低压ボイラー	硫黄酸化物排出量 (Nm ³ /h)	0.08	0.02	—	—
	窒素酸化物濃度 (ppm)	230	85	—	—
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.25	0.007	—	—
新城南工場 2号低压ボイラー	硫黄酸化物排出量 (Nm ³ /h)	0.08	0.02	—	—
	窒素酸化物濃度 (ppm)	250	83	—	—
	ばいじん濃度 (g/Nm ³)	0.15	0.007	—	—

法律名称等：大気汚染防止法、愛知県条例

水質関係測定データ（主要排水）

排水口名	項目	規制値	2004年度実績値		
			平均	最大	最少
新城工場 No.1排水	pH	5.8～8.6	7.4	7.8	7
	BOD濃度 (mg/l)	25	1.6	4.5	0.5
	COD濃度 (mg/l)	25	3	4.4	1.5
	SS濃度 (mg/l)	30	2.8	7	1
	油分濃度 (mg/l)	10	0.6未満	0.9	0.5未満
新城工場 No.2排水	pH	5.8～8.6	7.5	7.8	7.2
	BOD濃度 (mg/l)	25	1.4	3.3	0.5
	COD濃度 (mg/l)	25	2.4	3.8	1.5
	SS濃度 (mg/l)	30	2.4	19	1
	油分濃度 (mg/l)	10	0.5未満	0.6	0.5未満
新城南工場	pH	5.8～8.6	7.8	8.2	7.4
	BOD濃度 (mg/l)	20	6.9	17	2.1
	COD濃度 (mg/l)	20	8.7	16	5
	SS濃度 (mg/l)	20	6.9	11	1
	油分濃度 (mg/l)	10	0.5未満	0.5	0.5未満

法律名称等：愛知県条例、公害防止協定

PRTR対象物質（単位：トン／年）

新城工場					安全性影響度評価 V-2 ★			
政令番号	対象化学物質	取引量	排出量*	移動量*	有害性ランク (人)	年間換算排出量 (人)	有害性ランク (生態)	年間換算排出量 (生態)
115	N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	563.3	0	2.8	D	0	A	0
282	N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	154.6	0	0.62	D	0	A	0
198	ヘキサメチレンテトラミン	41.6	0	0.16	C	0	D	0
100	コバルト及びその化合物	20.1	0	0.18	A	0	—	0
266	フェノール	18.4	0	0.28	A	0	B	0
227	トルエン	14.6	14.6	0	C	146	D	14.6
310	ホルムアルデヒド	13.4	0	0	A	0	C	0
63	キシレン	1.4	1.4	0	C	14	A	1,400
総合計		827.4	16	4		160		1,414.6

新城南工場					安全性影響度評価 VIII-5 ★			
政令番号	対象化学物質	取引量	排出量*	移動量*	有害性ランク (人)	年間換算排出量 (人)	有害性ランク (生態)	年間換算排出量 (生態)
115	N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	15.9	0	0.3	D	0	A	0
282	N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	3.7	0	0.45	D	0	A	0
総合計		19.6	0	0.8		0		0

取引量は1トン以上を記載

*1 排出量＝公共用水域＋土壌＋埋立

*2 移動量＝公共下水道＋処理施設＋除去処分

尾道工場

生產品目：建設車両用タイヤ
敷地面積：193,000m²
従業員数：180人（2005年3月）
所在地：〒722-0051 広島県尾道市東尾道20番地
TEL. 0848 (46) 4580

工場長 宮本 正夫



工場長コメント

尾道工場は建設車両用タイヤの専門工場であり、風光明媚な瀬戸内海に隣接した立地条件に恵まれた工場です。しかし、製品が大きいため生産には大型の設備を動かす必要があり、エネルギーを多量に消費するだけでなく、もし失敗すれば大量の屑を出してしまいます。地球環境に優しく、地域に愛される工場となるためには、資源の有効活用も含め徹底して産廃物を削減しなければなりません。同時にエネルギーの無駄使いを無くし、省エネ活動を積極的に進め地球温暖化をできる限り防止しなくてはなりません。また、分別を徹底して実践し、リサイクルに努めることは言うまでもありません。今後も地域の模範的工場となることをめざし、継続した活動を実践していきます。

環境方針

- 1 尾道工場は、全ての活動分野で環境へ配慮した施策に取り組む。
- 2 信頼される工場となるために環境マネジメントシステムを強化し、環境汚染の予防と環境改善を継続的に進める。
- 3 全員の知恵と改善力を結集し、環境改善のできることから確実に実施していく。
- 4 環境負荷低減のため屑の削減、省資源及びリサイクルの推進を図る。
- 5 埋め立て廃棄物の低減及びリサイクルの推進によりゼロエミッションを継続する。
- 6 関連する法規制及び協定等を遵守し、環境保全に取り組む。
- 7 環境方針を具現化するため環境目的・目標を設定し、計画的に実行する。環境目的・目標及び計画は、年1回見直しを行う。
- 8 全従業員が、本方針を理解し、行動するよう教育と啓蒙を行い周知を図る。
- 9 瀬戸内海に面する生産事業所として、瀬戸内海の環境保護に努め、地域社会との融和を目指した企業活動を推進する。
- 10 本方針は公開する。

地域交流活動・その他

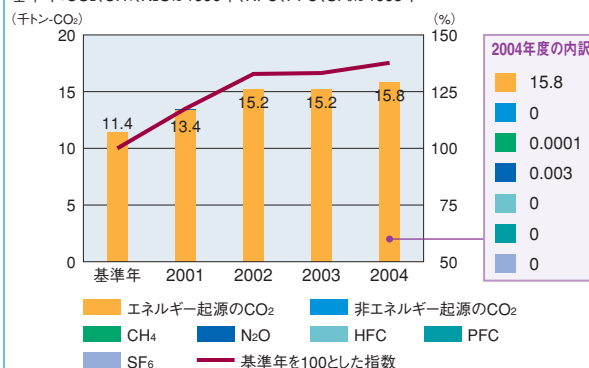
工場敷地内にタイヤで作った恐竜を展示した「恐竜公園」を設け一般公開しています。日頃から子供連れの方をはじめ、多くの市民が訪れます。特に春の桜見物の頃は一段と賑わい、昨年の来場者数は1,085名に達しました。そのほか、工場内グラウンドや空き地なども一般開放しています。



工場周辺道路の清掃活動を年4回実施しています。昨年は年間で148名が参加し、およそ450kgのゴミを収集しました。

総温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数

基準年：CO₂、CH₄、N₂Oは1990年、HFC、PFC、SF₆は1995年



大気関係測定データ（主要施設）

施設名称	項目	規制値	2004年度実績値		
			平均	最大	最少
ボイラー	硫黄酸化物排出量(Nm ³ /h)	5	0.129	0.22	0.049
	窒素酸化物濃度(ppm)	200	65	68	62
	ばいじん濃度(g/Nm ³)	0.1	0.0035	0.0058	0.0015

法律名称等：大気汚染防止法、広島県・尾道市公害防止協定

水質関係測定データ（主要排水）

排水口名	項目	規制値	2004年度実績値		
			平均	最大	最少
	pH	5～9	8.5	8.7	7.8
	BOD濃度(mg/l)	600	210	—	—
	SS濃度(mg/l)	600	66	—	—
	油分濃度(mg/l)	30	18	—	—

法規制対象外（自主管理測定）、規制値は尾道市下水道条例

PRTR対象物質（単位：トン／年）

政令番号	対象化学物質	取扱い量	排出量 ^{*1}	移動量 ^{*2}	安全性影響度評価 VIII-5 ★			
					有害性ランク(人)	年間換算排出量(人)	有害性ランク(生態)	年間換算排出量(生態)
282	N-(tert-ブチル)-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	74.8	0	0.021	D	0	A	0
115	N-シクロヘキシル-2-ベンゾチアゾールスルフェンアミド	43.1	0	0.023	D	0	A	0
総合計		117.9	0	0.044		0		0

取扱い量は1トン以上を記載

^{*1} 排出量＝公共用水域＋土壌＋埋立

^{*2} 移動量＝公共下水道＋処理施設＋除去処分

茨城工場

生産品目：高圧ホース、シーリング材

敷地面積：152,000m²

従業員数：206人（2005年3月）

所在地：〒319-0198 茨城県東茨城郡美野里町羽鳥西1番地
TEL. 0299 (46) 1111

工場長 矢萩 雅一



工場長コメント

茨城工場は1973年より高圧ホースの専門工場として地域との共生、地域に愛される工場をめざし、今日まで生産活動を続けてきました。生産開始以来、水質汚染、大気汚染、騒音など環境問題に対する対策は当然のことながら、社有施設の地域への開放、地域イベントへの積極的参加などを通じて地域社会とのコミュニケーション向上に努め、良好な関係を維持しています。また、操業当初から省エネ活動にも注力し、1987年には「エネルギー管理優良工場通産大臣賞」を受賞しています。1999年に取得した「ISO14001」も今年6月に2004年版へと更新しました。2004年にはゼロエミッションを達成しましたが、将来に向け環境マネジメントをさらに強化し、法規制・協定の遵守、省エネルギー、廃棄物発生量の低減、グリーン購買やリサイクルの推進など環境汚染の予防と継続的改善を全員参加で進めていきます。

環境方針

- 1 茨城工場は、全ての活動分野で環境へ配慮した施策に取り組む。
- 2 信頼される工場となるために環境マネジメント・システムを強化し、環境汚染の予防と環境改善を継続的に進める。
- 3 世界一の工場づくりを目指し、環境改善のできることから確実に実施していく。
- 4 資源保護のための省エネルギー、廃棄物の低減及びリサイクルの推進を図る。
- 5 関連する法規制及び協定等を遵守し、環境保全に取り組む。
- 6 環境方針を具現化するため環境目的・目標を設定し、計画的に実行する。
- 7 環境目的・目標及び計画は、年1回見直しを行う。
- 8 工場内全従業員及び組織の為に働く全ての人が本方針を理解し、行動するよう教育と啓蒙を行い周知を図る。
- 9 美野里の自然との調和・融合と地域との共生を目指す。
- 10 本方針は、一般の人からの要求に応じ公表する。

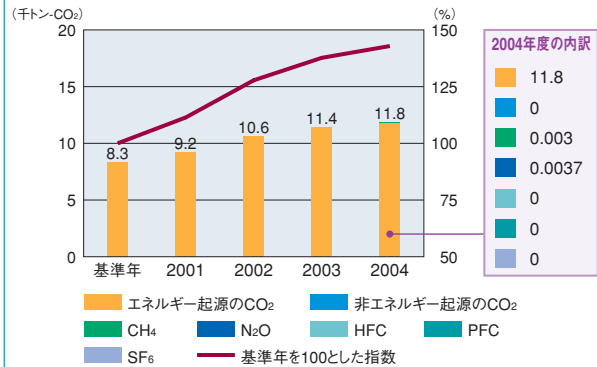
地域交流活動・その他

毎年2月に開催される美野里町駅伝大会に参加しています。大会当日は茨城工場から参加選手ほか、役員や応援者が数多く駆けつけ、地域行事の活性化に貢献しています。



総温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数

基準年：CO₂、CH₄、N₂Oは1990年、HFC、PFC、SF₆は1995年



大気関係測定データ（主要施設）

施設名称	項目	規制値	2004年度実績値		
			平均	最大	最少
ボイラー	硫黄酸化物(K値)	10	0.145	0.21	0.08
	窒素酸化物濃度(ppm)	250	62.5	63	62
	ばいじん濃度(g/Nm ³)	0.2	0.003	0.005	0.001未満

法律名称等：大気汚染防止法、美野里町公害防止協定

水質関係測定データ（主要排水）

排水口名	項目	規制値	2004年度実績値		
			平均	最大	最少
	pH	5.8～8.6	7.6	8.2	6.9
	BOD濃度(mg/l)	10	2.7	7.9	1未満
	COD濃度(mg/l)	20	1.3	4	1未満
	SS濃度(mg/l)	30	0.4	3.2	1未満
	油分濃度(mg/l)	3	0.5未満	0.5未満	0.5未満

法律名称等：茨城県条例、美野里町公害防止協定

PRTR対象物質（単位：トン／年）

政令番号	対象化学物質	取扱量	排出量 [*]	移動量 ^{**}	安全性影響度評価 VI-3 ★			
					有害性 ランク (人)	年間換算 排出量 (人)	有害性 ランク (生態)	年間換算 排出量 (生態)
293	ヘキサメチレン＝ジイソシアネート	33.6	0	0	A	0	—	0
227	トルエン	27.2	5.4	0.52	C	54	D	5.4
230	鉛及びその化合物	26.1	0	0	A	0	A	0
63	キシレン	9.4	0.4	0.22	C	4	A	400
176	有機スズ化合物	3.3	0	0.85	A	0	A	0
272	フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	3.1	0	0.67	A	0	A	0
30	ビスフェノールA型エポキシ樹脂	2.5	0	0.14	C	0	D	0
総合計		105.1	5.8	2.4		58		405.4

取扱量は1トン以上を記載

^{*} 排出量＝公共用水域＋土壌＋埋立

^{**} 移動量＝公共下水道＋処理施設＋除去処分

平塚東工場

生産品目：空調機器用カップリング、油圧ホース金具、
油圧ホースアッセンブリー

敷地面積：17,000m²

従業員数：253人（2005年3月）

所在地：〒254-0016 神奈川県平塚市東八幡4丁目6番40号

TEL. 0463 (23) 0331

工場長 荻野 善雄*



工場長コメント

組み立て工場である平塚東工場では、物流に伴うCO₂の削減が一番の課題となります。そのため、工場敷地内での輸送便アイドリングストップの徹底はもとより、トラック輸送に頼っている製品輸送のモデルシフト化を検討し進めていきたいと考えています。廃棄物に関しては埋立て量の1%未満化は達成できましたので、次は最終処分量の1%未満化をめざします。同時に地域とのコミュニケーション活動にも力を注ぎ、湘南海岸の清掃美化運動や周辺の関連企業と連携しての工場周辺清掃、植樹による工場緑化を推進する「花いっぱい運動」などを行っています。また、平塚東工場が環境に配慮した生産活動を行っていることを、地域の方々に知っていただく場を設けることで、地域と安心して共生できると考えています。

環境方針

- 1 商品の企画から設計、生産、サービス、廃棄に至るあらゆる段階で環境負荷の低減に取り組みます。
- 2 信頼され続ける会社として、環境汚染の予防と環境改善を継続的に推進します。
- 3 地球温暖化防止、資源保護のための省エネルギー、全てのロスのゼロ化にこだわり廃棄物の発生を抑制し、廃棄物の分別による再資源化及び再使用活動を行います。
- 4 当社に関連する環境法規制及び当社が同意するその他要求事項を順守します。
- 5 環境目的・目標（Plan）を設定し、計画的に実行し（Do）、活動内容の点検・是正（Check）を行い、年1回のマネジメントレビュー（Action）を通して継続的に改善し第三者の監査を受け確認します。
- 6 全ての従業員及び構成員が本環境方針を理解し行動するよう教育と啓蒙を行ない周知をはかります。
- 7 地域社会とのコミュニケーションをはかり、地域社会に貢献する活動を積極的に推進します。
- 8 本環境方針は、一般の人からの要求に応じ公開します。

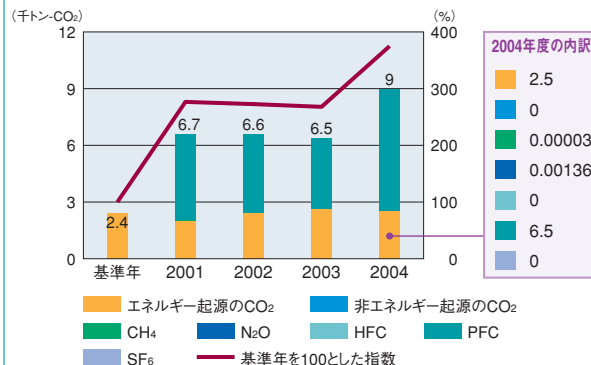
地域交流活動・その他

従業員、関係者はもちろん、そのほかの方々についても工場敷地内でのアイドリングストップをお願いし、排出CO₂削減を徹底しています。



総温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数

基準年：CO₂、CH₄、N₂Oは1990年、HFC、PFC、SF₆は1995年



水質関係測定データ（主要排水）

排水口名	項目	規制値	2004年度実績		
			平均	最大	最少
	pH	5.7～8.7	8.2	8.4	8.1
	BOD濃度 (mg/l)	300	52	88	15
	SS濃度 (mg/l)	300	20.7	35	6.8
	油分濃度 (mg/l)	30	2.2	4.1	1

法律名称等：平塚市下水道条例

* 2005年10月1日付で茨城工場長が平塚東工場長兼務となりました。

長野工場

生産品目: 空調機器用カップリング、油圧ホース金具、
油圧ホースアセンブリー

敷地面積: 22,000m²

従業員数: 138人(2005年3月)

所在地: 〒399-3102 長野県下伊那郡高森町吉田548番地

TEL. 0265(35)3211

工場長 石井 祥夫



工場長コメント

長野工場は、美しく豊かな自然の恵みに抱かれた地にあり、この恵みを過去から未来へと引き継いでいく重要な責任を担っています。私たち、長野工場で働く一人ひとりがその認識に立ち、地域のリーディングカンパニーとして自他ともに認められる企業をめざし、社会責任を果たしていきます。

環境方針

- 1 生産から廃棄に至るあらゆる段階で環境負荷低減に取り組みます。
- 2 地域に愛され、信頼され続ける工場として環境汚染の予防、環境改善を継続的に推進します。
- 3 地球温暖化防止、資源保護に向けての省資源、省エネルギーに努め、あらゆるロスのゼロ化にこだわり産廃物の低減に取り組みます。
- 4 環境に関する法規制、及び関連する協定を遵守し、環境保全に取り組みます。
- 5 工場における環境目的・目標を設定し、定期的な見直しを行うことによって継続的改善を推進します。
- 6 工場の全従業員及び構成員が本環境方針を理解し行動するよう教育と啓蒙を行ない周知徹底します。
- 7 地域社会とのコミュニケーションを図り、地域の一員として地域社会に貢献する活動を積極的に推進します。
- 8 本環境方針は、一般の人からの要求に応じ公表します。

地域交流活動・その他

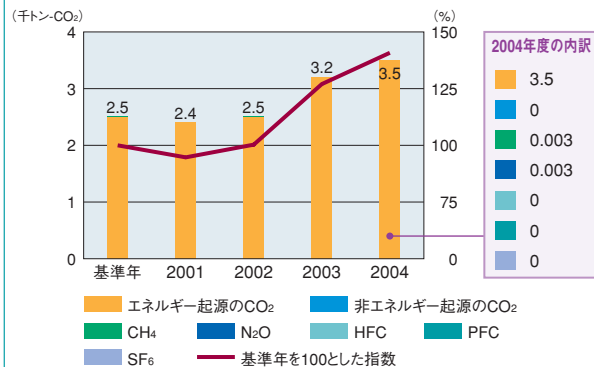
工場敷地内で育てたリンゴを収穫し、近隣のお年寄りや障害者施設「こぶし園」などに寄贈しています(写真右)。

2005年7月、連続無災害400万時間達成を記念し、南雲忠信社長参加のもと、植樹祭を催しました(写真下2点)。



総温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数

基準年: CO₂、CH₄、N₂Oは1990年、HFC、PFC、SF₆は1995年



水質関係測定データ(主要排水)

排水口名	項目	規制値	2004年度実績		
			平均	最大	最少
	pH	5.8~8.6	7.4	—	—
	BOD濃度 (mg/l)	160	3.5	—	—
	COD濃度 (mg/l)	160	10	—	—
	SS濃度 (mg/l)	200	12	—	—
	油分濃度 (mg/l)	5	2.5	—	—

法律名称等: 法規制対象外(自主管理測定)、規制値は長野県条例

海外グループ会社

ヨコハマタイヤ・フィリピン

生產品目: 乗用車用タイヤ
敷地面積: 165,000m²
従業員数: 803人(2005年3月)
所在地: IE5, Clark Special Economic Zone,
Clark Field, Pampanga, Philippines
TEL. +63-45-599-3603~9

社長 長田 実



社長コメント

ヨコハマタイヤ・フィリピン(YTPI)は、当工場で定める環境管理ビジョンの下、2000年10月にISO14001を取得し今日に至っています。昨年10月には「優秀環境保全活動」に対する表彰をアロヨ大統領からいただきました。現在は地元大学での環境管理システムの講義、現地企業への研修会などフィリピンの環境活動の推進に貢献する一方、地元コミュニティへ再利用できる部材を提供するなど、リサイクル活動にも力を入れています。こうした活動を通じて、横浜ゴムグループの一員として自然豊かなクラーク地域への責務を果たしていると感じています。来年創立10周年を迎えるにあたり、工場拡張と地域への環境保護活動を通じてさらなる飛躍を図ります。

環境管理ビジョン

ラジアルタイヤ生産拠点であるヨコハマタイヤ・フィリピンは、環境と地球資源の保全に努めます。そのために、再利用、使用量の削減、リサイクルを通して、効率的かつ効果的な原料や資源の活用を目指します。

EMS Vision

YTPI, a manufacturer of pneumatic radial tires, believes in preserving the environment and earth's resources. It aims to accomplish efficient and effective use of materials and resources through the concept of Re-using, Reducing, Recycling, as everyone's concern.

環境方針

- 1 ヨコハマタイヤ・フィリピンは全ての活動分野で環境に配慮した施策に取り組む。
- 2 環境マネジメントシステムを構築、強化し、継続的な改良活動と最良でコスト効果の高いテクノロジーを利用することで、環境汚染の防止に努める。
- 3 法律や管轄機関の定める要求やその他の環境規則に従う。
- 4 資源保護のため、省エネルギーや省資源化、廃棄物削減、リサイクルの目標を設定して実行する。また、計画は定期的に見直しを行う。
- 5 全従業員に情報、教育、トレーニングプログラムを提供し、協力して環境保護に努める。
- 6 本方針は一般の人からの要求に応じ公開する。

Environmental Policy

YTPI shall:

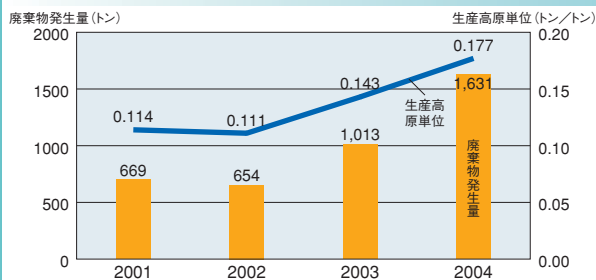
- Address all environmental concern in all its activities;
- Establish and strengthen the environmental management system, implementing preventive measures against pollution through continuous improvement, applying the best and cost-effective technology;
- Comply with applicable legal requirements, abide to government directives and other environmental regulations;
- Set and carry out waste control targets through energy and materials savings, waste reduction and recycling, and conduct annual environmental program assessment; and,
- Provide company-wide environmental information, education, and training programs to employees, as well as align with and contribute to the environmental welfare and programs of the public.
- This policy shall be made available to the public.

地域交流活動・その他

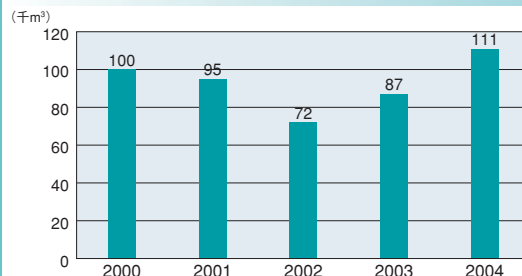
昨年4月に、環境保全の啓蒙活動の一環として、環境マネジメントシステムと安全性に関するハンドブック「EMS」を作成し、すべての関係従業員に配布しました。共通の意識をヨコハマタイヤ・フィリピンに関係する全従業員が共有することで、更なる環境保全、安全性向上を進めていきます。



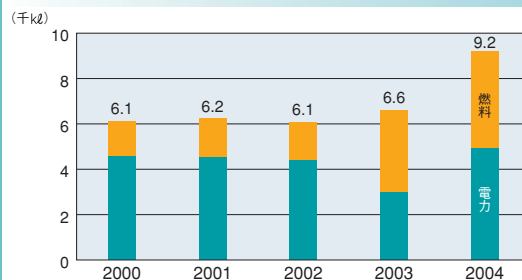
廃棄物発生量と生産高原単位



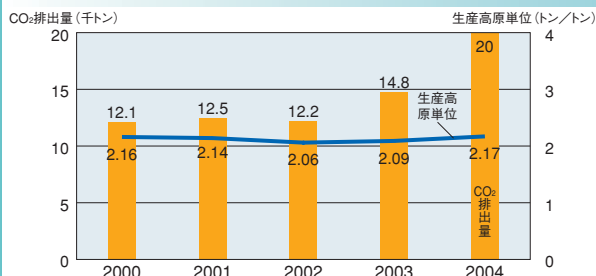
水使用量



エネルギー使用量(原油換算)



CO₂排出量と生産高原単位



※年度別業績値は1~12月で算出。

海外グループ会社

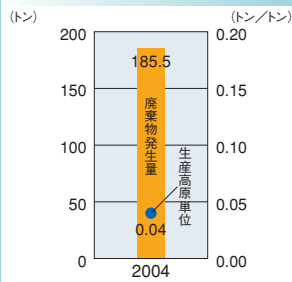
杭州ヨコハマタイヤ

生産品目: 乗用車用タイヤ
敷地面積: 98,000m²
従業員数: 353人(2005年3月)
所在地: 中国浙江省杭州市杭州経済技術開発区
TEL. +86-571-8672-5885

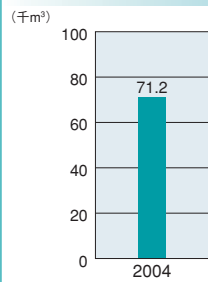
社長 持永 義登



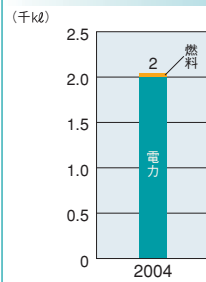
廃棄物発生量と生産高原単位



水使用量



エネルギー使用量(原油換算)



CO₂排出量と生産高原単位



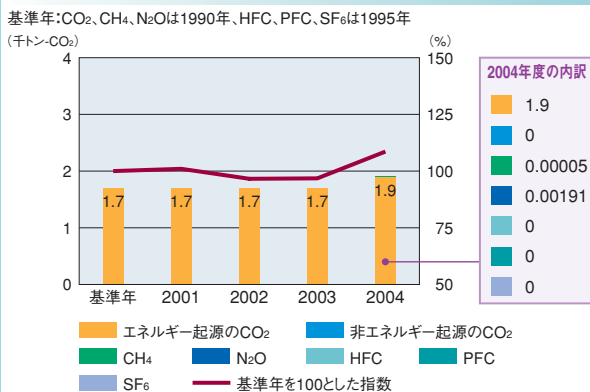
※年度別業績値は1～12月で算出。

本社・国内関連会社

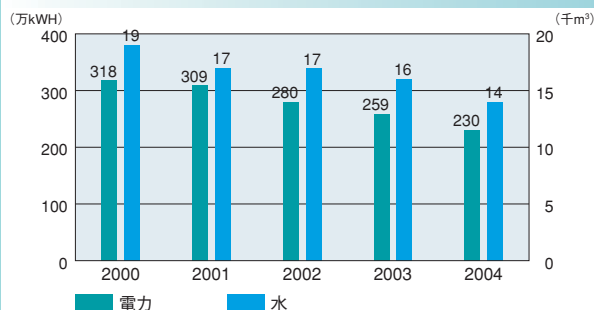
本 社

従業員数: 523人(2005年3月)
所在地: 〒105-8685 東京都港区新橋5-36-11
TEL. 03(3432)7111

総温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数

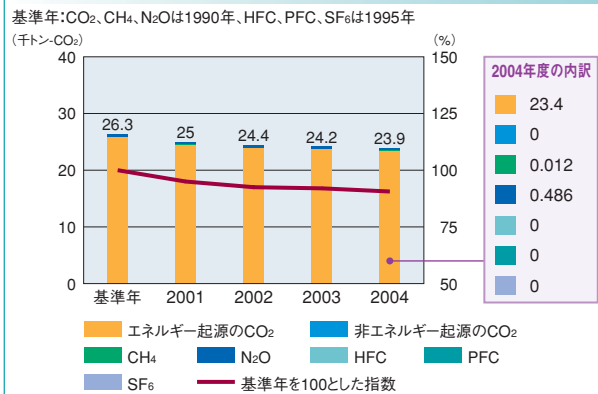


電力使用量と水使用量

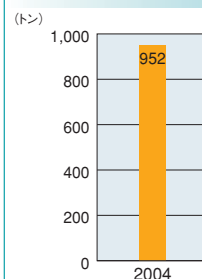


国内関連会社

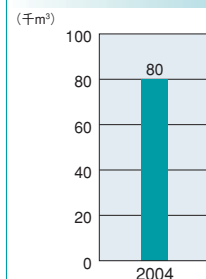
総温室効果ガス排出量と基準年を100とした指数



廃棄物発生量



水使用量



※国内関連会社の数値は以下44社の合計

ヨコハマタイヤ東日本リトレッド(株)、ヨコハマタイヤ近畿販売(株)、浜ゴム物流(株)、沖縄ヨコハマタイヤ(株)、(株)ワイ・エフ・シー、(株)プロギア、ヨコハマタイヤ東北販売(株)、茨城ヨコハマタイヤ販売(株)、ヨコハマタイヤ中部販売(株)、新潟ヨコハマタイヤ販売(株)、浜ゴム不動産(株)、山陽リトレッド(株)、ヨコハマタイヤ甲信販売(株)、横浜ゴムMBH(株)、ハマゴムエイコム(株)、ヨコハマタイヤ北東北販売(株)、三重ヨコハマタイヤ販売(株)、日本パワープレーキ(株)、横浜ゴムMBK(株)、青森ヨコハマタイヤ販売(株)、横浜ゴムMBC(株)、ヨコハマタイヤ神奈川販売(株)、横浜ゴムMBM(株)、横浜ゴムMBE(株)、東京ハマタイト(株)、ヨコハマタイヤ東京販売(株)、ヨコハマタイヤ北陸販売(株)、北海道ヨコハマタイヤ販売(株)、ヨコハマ建機タイヤサービス、ヨコハマタイヤ千葉販売(株)、伊那ヨコハマタイヤ販売(株)、横浜ゴムMBT(株)、鹿児島ヨコハマタイヤ販売(株)、(株)アライズ、ヨコハマタイヤ岡山販売(株)、ヨコハマタイヤ四国販売(株)、ヨコハマタイヤ静岡販売(株)、札幌ヨコハマタイヤ販売(株)、ヨコハマタイヤ中国販売(株)、ヨコハマタイヤ関東販売(株)、横浜ゴムMBW(株)、ヨコハマタイヤ九州販売(株)、浜ゴム興産(株)、浜ゴムエンジニアリング(株)

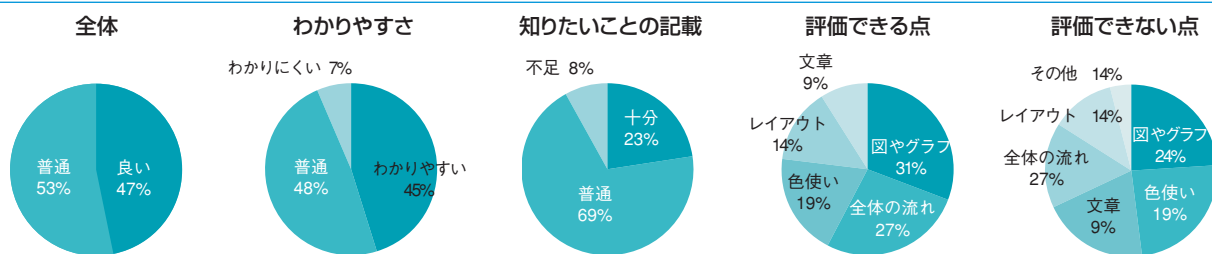
環境保護活動の歩み

1971	● 公害防止を目的に「環境改善部」を創立	2001	● 研究開発段階から有害化学物質を排除する「化学物質管理強化」を開始 ● 三重工場、ゴム臭気防止設備を導入（第2期） ● 三島工場、ボイラー燃料を重油から都市ガスに転換 ● 2005年度末達成を目標に「ゼロエミッション」活動を開始 ● 2000年度分から環境会計の公表を開始 ● 横浜ハイデックス、「ISO14001」の認証を取得
1972	● 省エネルギー推進の会議体を設置	2002	● 三島工場、「地球環境保全功労賞」を受賞 ● YHアメリカ、「ISO14001」の認証を取得 ● 三島工場、「3R推進協議会会長賞」を受賞
1974	● 生産事業所への排煙脱硫装置設置を開始 ● 尾道工場（無排水工場）完成 ● 平塚製造所、排水処理設備を備える廃棄物最終処分場を設置	2003	● ヨコハマタイヤ・フィリピン「コージェネレーション」システムを導入 ● 新城工場、「資源エネルギー庁長官賞」を受賞 ● ヨコハマゴム・タイ、「ISO14001」の認証を取得 ● 三重工場、「3R推進協議会会長賞」を受賞 ● 平塚製造所、三島／尾道／茨城工場、「ゼロエミッション」を達成
1975	● 平塚製造所、ボイラー脱臭装置が設置 ● 平塚製造所、表面処理廃水処理装置を設置 ● 「公害の手引き」を発行	2004	● 三重／新城工場、「ゼロエミッション」を達成
1976	● 「環境改善部」を「環境管理室」に名称変更 ● 平塚製造所、廃タイヤリサイクル実証プラントを設置 ● 平塚製造所、地盤沈下防止用水循環再利用装置を設置 ● 平塚製造所、低NOxバーナーを設置	2005	● 平塚東／長野工場、「ゼロエミッション」を達成。国内全8事業所が「ゼロエミッション」達成 ● 三島工場にコージェネレーションシステムを導入 ● 環境経営中長期計画を策定 ● 環境経営体制を刷新し執行責任を明確化
1992	● 「環境管理室」を発展・強化させ、名称を「環境保護推進室」に変更 ● 三重工場、廃熱利用式大型タイヤ焼却炉を設置		
1993	● 平塚製造所、ボイラー燃料を重油から都市ガスに転換（第1期） ● 「環境行動計画」を策定、地球温暖化対策、廃棄物削減などを行動目標化		
1994	● 平塚製造所、ボイラー燃料を重油から都市ガスに転換（第2期） ● 天然ゴムの梱包材を木枠から鉄製枠の通い便方式へ変更 ● 平塚製造所、特定フロンから代替フロンへの転換を完了		
1995	● 「環境の手引き」を発行 ● ポリエチレンリサイクルで1995年度「リサイクル推進協議会会長賞」を受賞 ● 平塚製造所、「1.1.1-トリクロロエタン」の使用を廃止		
1996	● 三重工場、1996年度「リサイクル推進協議会会長賞」を受賞 ● 平塚製造所、廃タイヤ再利用で「かながわ地球環境賞」を受賞		
1997	● 三重工場、大型脱臭装置を導入（第1期） ● 尾道工場、緑化モデル工場として「広島県知事賞」を受賞		
1998	● 「環境基本方針」「環境行動指針」「行動目標」を制定 ● 「タイヤのLCA（ライフサイクルアセスメント）」を開発 ● 三島工場、「ISO14001」の認証を取得		
1999	● 平塚製造所、三重／新城／尾道／茨城工場、「ISO14001」の認証を取得 ● 平塚製造所、「コージェネレーション」システムを導入		
2000	● 尾道／新城工場、エネルギー管理で「通産省表彰」を受賞 ● 「エコレポート」の発行を開始 ● ヨコハマタイヤ・フィリピン、「ISO14001」の認証を取得 ● 「エコプロダクツ」展への出展を開始		

「エコレポート2004」アンケート結果と改善点

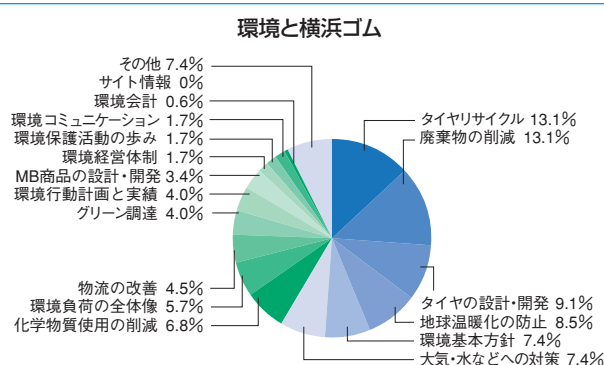
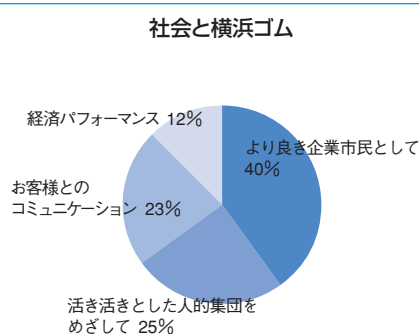
昨年発行の「エコレポート2004」のアンケート調査で、62名の読者の皆様から様々な声が寄せられました。主な内容と寄せられた声をご紹介します。2005年度版の改善にあたって皆さまの声を活用させていただきました。ご協力ありがとうございました。

(1)「エコレポート」についてどのように感じられましたか

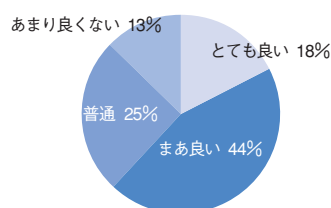


*評価できないに関する自由記載——専門用語が多く意味が分からない、環境のマイナス側面の記載がない、各工場の情報が少ない、字数が多い

(2) 関心を持たれた項目は(複数回答)



(3) 横浜ゴムの社会・環境活動への取り組みについて



(4) 主なご意見とご要望

- 廃タイヤの100%リサイクル、タイヤを捨てられないような対策
- 今後重点的に取り組む活動が見えない
- 工場内の緑を増やす
- 地域住民と生産活動の共存共栄のためのコミュニケーション活動
- 地域に好まれる安全でクリーンな会社づくり
- 第三者機関の評価検証があれば相対評価できる

アンケート結果を踏まえた2005年版の改善点

(1)「エコレポート」全体の感想

- 全体、わかりやすさ、知りたいことに関する感想は、「普通」との回答が最も多数を占めました。
改善点→「普通」を上回るべく掲載情報量の拡大、内容の充実に努めました。
- 評価できる点、できない点はいずれも図やグラフが最も高い関心を集めました。
改善点→昨年に比べさらに図やグラフの点数を増やし、理解度の向上を目指しました。

(2) 関心を持たれた項目

- 社会と横浜ゴムでは社会貢献活動、人事、お客様との関係に高い関心が集まりました。
改善点→各テーマについてページ数を増やしてより詳細な説明を行いました。
改善点→経済性については、焦点を株主に当てテーマをより鮮明にしました。
- 環境と横浜ゴムではタイヤリサイクル、廃棄物、タイヤの設計・開発などに強い関心が寄せられました。
改善点→タイヤリサイクルを充実させました(販売会社の活動、ボランティアへの協力など)。
改善点→タイヤの設計・開発、地球温暖化防止のほか、各ページの内容充実を目指しました。

(3) 横浜ゴムの社会・環境活動への取り組み

- まあ良い、普通が約7割を占めました。
改善点→より高い評価を得るべく全体の内容充実を図りました。

(4) その他のご意見とご要望

改善点→様々なご意見をいただきました。可能な限り活動内容に導入したいと考えています。

編集後記

今年度から「社会・環境報告書編集会議」が編集責任を担うことにしたのは、企業の社会的責任の重要性を深く認識し、より積極的に情報開示に取り組むこととしたためです。2005年度版は昨年度版に比べ次のような改善を図りました。

(1)環境保護活動の取り組み・情報開示を強化

当社は2005年度、環境経営中長期計画を策定するとともに、執行責任を明確にし推進体制を刷新しました。同時に連結環境経営をスタートさせ、京都議定書の目標を上回る温室効果ガスの削減目標（12%減）を設定するなど、環境経営の大幅な強化を図りました。こうした一連の活動強化策によって、環境側面の情報開示がより充実したものとなりました。

(2)生産事業所のデータを充実

サイト情報の充実を図るため、各サイトごとに責任者のコメント、事業所方針、特色などを掲載しました。また今年度から温暖化防止策をさらに強化するため、各サイトごとの温室効果ガス(6物質)の排出量も情報公開することとしました。さらに新しい試みとして、化学物質の排出量が人の健康や生態系に与える影響度(安全性影響度)を示す評価方法も紹介し、読者がデータの持つ意味をより身近に感じられるよう工夫しました。

(3)経済・社会側面の活動をより詳細に紹介

経済・社会側面の情報開示についても「より具体的な内容、データの提示」を課題として全面的に見直しを図りました。この結果、経済成績、品質改善、従業員との関わり、地域社会との関わりの

活動紹介がより充実したものになりました。

(4)責任者のコミットメントを掲載

今年度から、それぞれの社会・環境活動に執行責任を持つ役員の取り組み姿勢を紹介することとしました。活動への取り組み姿勢、具体的な目標／スケジュールを記載し、来年度以降、継続的にフォローしていく考えです。

以上のような改善を図りましたが、連結環境データが不十分、グローバルデータが未整備など、まだまだ多くの課題が残されています。今後は、私たちの社会・環境活動をさらに強化するとともに、幅広いステークホルダーの皆様の声をお聞きすることで、来年度以降、さらに内容の改善・充実を図っていきたいと考えています。



取締役兼常務執行役員
秘書室・企画部・広報部・経理部・
情報システム部・監査室担当
兼ヨコハマコーポレーションオブ
ノースアメリカ取締役社長

社会・環境報告書編集責任者

小島達成